

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	いきるちから5		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 15日		令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 3日		令和7年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当たり前前かがり前かがりに出来ている。	対児童のかかわりにおいて、どの分野においても標準的な対応を求められるところ、どのスタッフも「これが出来ない」という状態がほぼない。スタッフが苦手意識がないので、児童もいるんなことに対してチャレンジする気持ちが持っている。	勿論すべてにおいて均一的に出来ているわけではないので、スタッフそれぞれで具体的な課題を持ってもらう。自分が出来ていないことは伝わらないことを理解し、自己研鑽を進めていく。また、担当している事項が困難な時に、ほかのスタッフにゆだねられる環境を作っていく
2	他事業所との関係性	いきるちから内でのコラボは勿論、他事業所との取り組みについても積極的に進めている。	いきるちから1～5での合同運動会。他事業所と併用している児童を通じた他の友達との交流など、1事業所でできないことを探っていく。自所対応が難しい場合はその課題に応じて、いきるちから以外の事業所にも相談、利用につなげている。
3	機動力の高さ	イベントなどの企画、行程を決め、行動に移すスピードがはやい。そこを楽しんでいるところもあり、大人が楽しんでいる姿が、直接児童に伝わっているところもある。	行ってきた行事ごとなどを棚卸→パフォーマンスのフィードバック(アンケートなど)を落とし込み、再現性、パフォーマンスを高めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の年齢層が偏りすぎている。コアメンバーが年長～小2と固まりすぎているため、見就学児にとって取り組みが難しくかったり、参加を嫌がる児童がいる。	集団レクを決まった時間に決められた形で行っている。ルール、やり方は同じ方法、運営はスタッフで一方向的に提供している。	個別は今まで通りで良いが、集団レクをグループ別にしたりと、同じ種目でもやり方を変えたりして見てはどうか？
2	不登校児に対する支援の仕方が定まらない。	課題自体が、放デイで求められている所とずれているため、不登校児のための環境とかけ離れている。	そもそも学校に行けてない日については午前中から来てもらい、しっかり自分をアピールする機会を作り、自分らしさが確立することから始めていき、それに共感できる友だち作り…「数より深さ」を持った関係性が築けるように見守っていく。
3	療育の世界に入ってきたばかりのスタッフが多く、経験値が少ない。	療育の経験は少ないが、今までの職業で培ってきた感覚を生かしていけるように業務分担任を担っている。	物事の原理原則を理解しているスタッフはフィールドが変わっても「こう来たところ」と感覚的に理解が早く、行動にも反映している。それぞれのもの見方を理解して、パフォーマンスの向上を目指す。